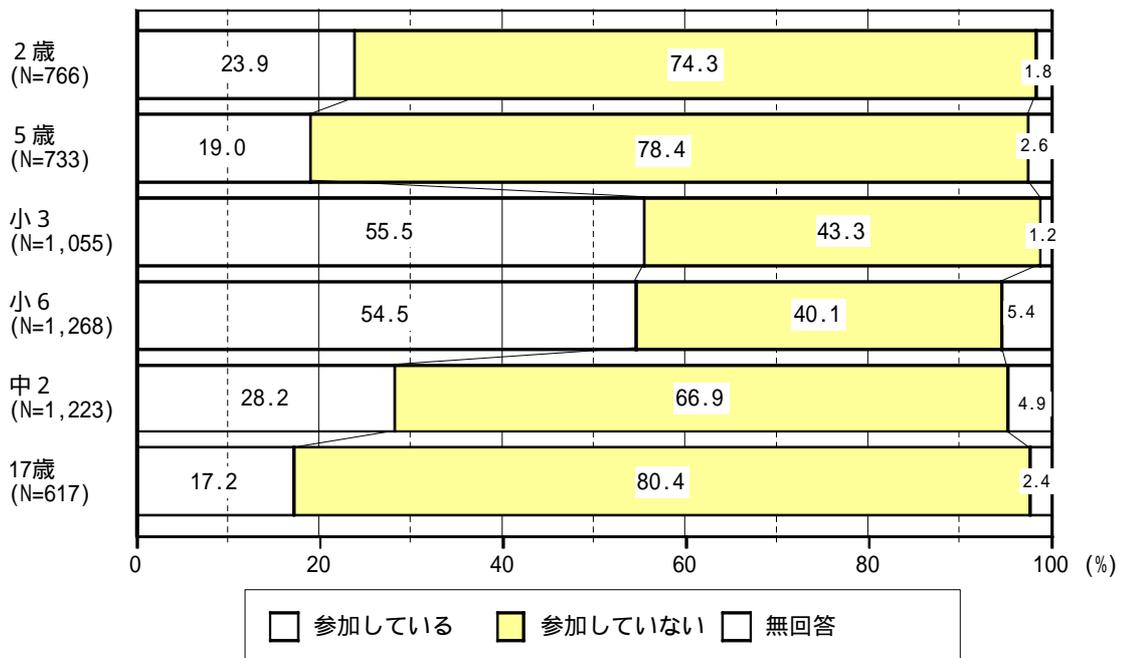


## 2. 地域とのかかわり

### 1. 子どもの地域活動

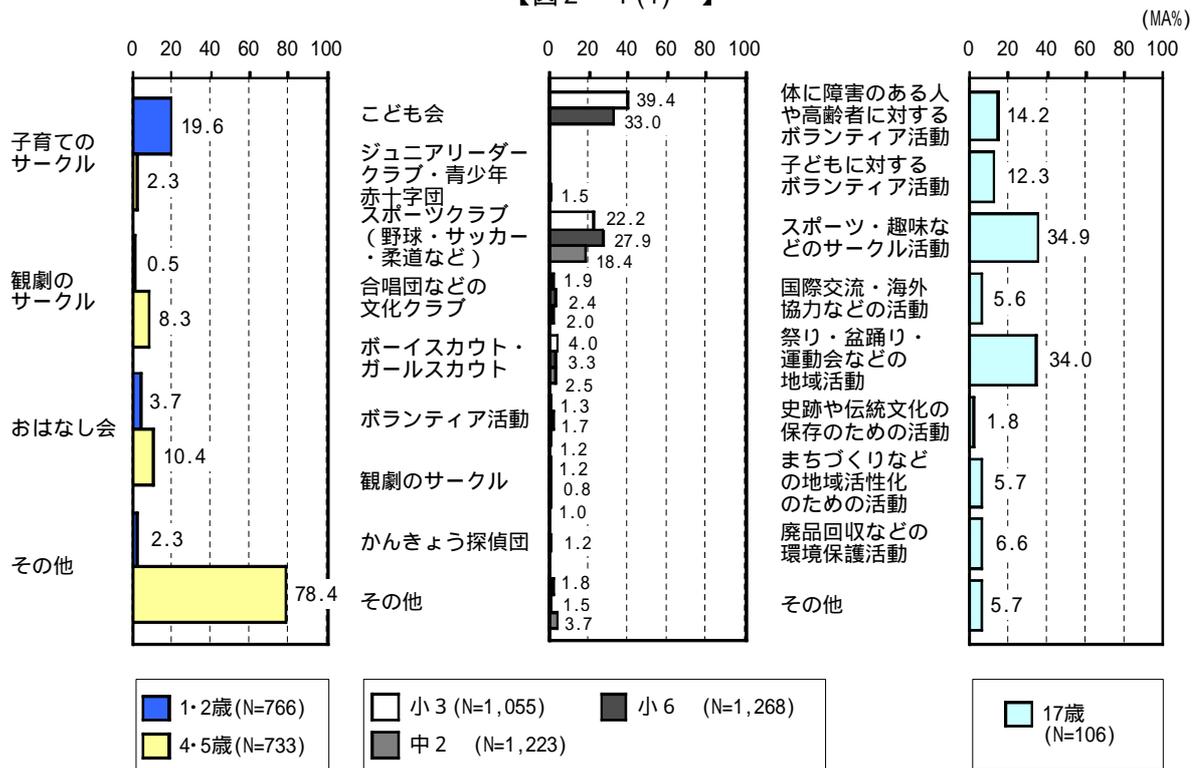
(1) 地域活動への参加状況 (2歳)(5歳)(小3)(小6)(中2)(17歳)

【図2-1(1)】



### 活動内容

【図2-1(1)】



子どもの地域活動への参加状況を見ると、小3、小6では半数以上が「参加している」と回答しているのに対し、それ以外の年代では「参加していない」人が65%以上を占めており、参加率は20～30%程度となっている。(図2 - 1(1))

参加している活動内容を見ると、2歳では「子育てサークル」(19.6%)、5歳では「おはなし会」(10.4%)、小3、小6では「こども会」(39.4%、33.0%)「スポーツクラブ(野球・サッカー・柔道など)」(22.2%、27.9%)、中2では「スポーツクラブ(野球・サッカー・柔道など)」(18.4%)、17歳では「スポーツ・趣味などのサークル活動」(34.9%)「祭り・盆踊り・運動会などの地域活動」(34.0%)への参加が多くなっている。(図2 - 1(1))

中2では、地域や社会の役に立ちたいと夢を持っている子どもの場合、地域活動への参加率も比較的高く、約40%を占めている。(表2 - 1(1) - 1)

また、いずれの年代も保護者で愚痴や無駄話を聞いてくれる人がいる場合は、全体平均とほぼ同じ参加率となっているが、いないの場合はさらに参加率は低くなり、中2を除く各年代で10%以上の開きがある。(表2 - 1(1) - 2)

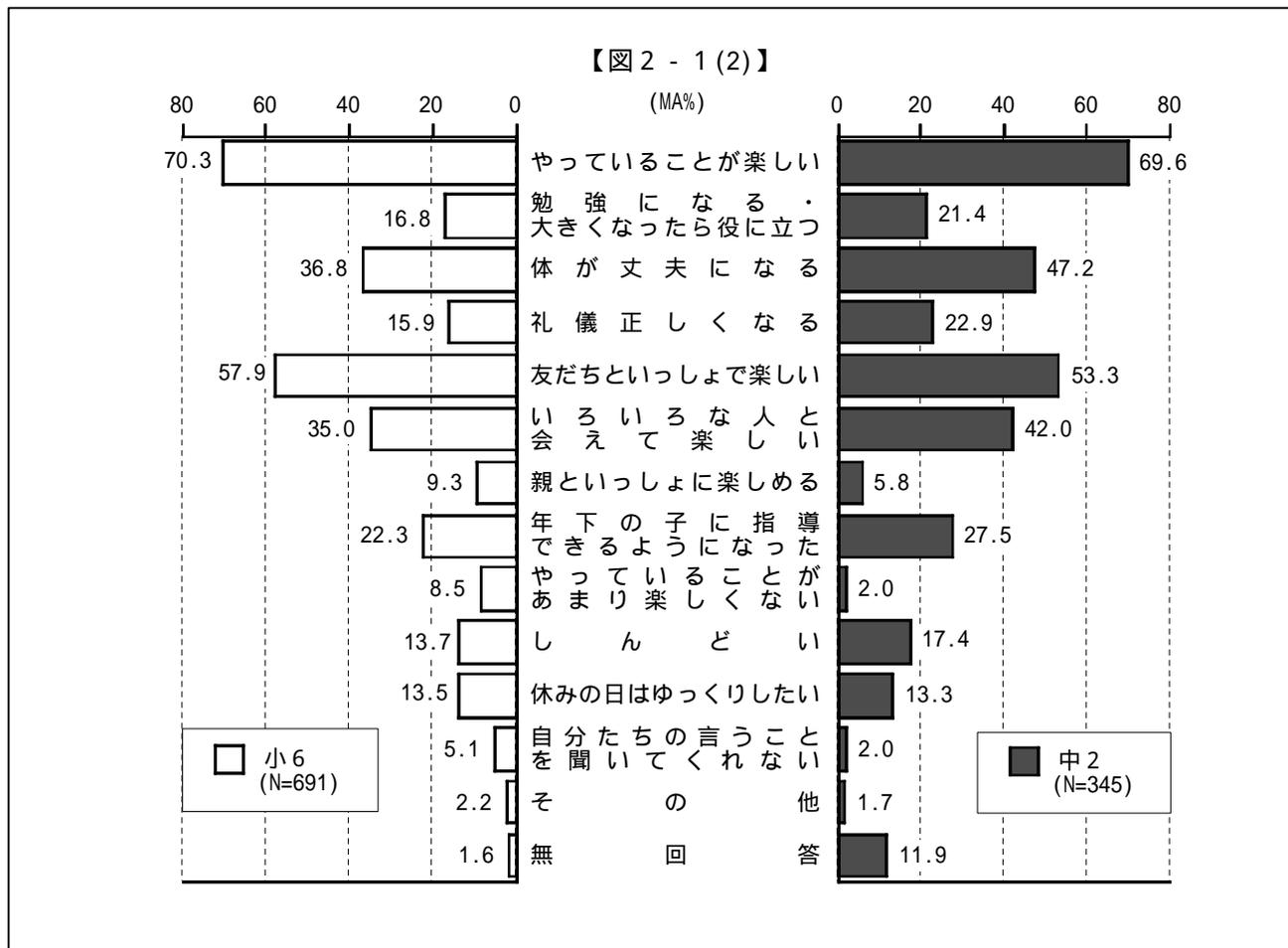
【表2 - 1(1) - 1 将来の夢別 地域活動への参加状況】

	全 体	参 加 し て い る	参 加 し て い な い	無 回 答
(%)				
将来の夢				
中2				
全 体	1223	28.2	66.9	4.9
地域や社会の役に立ちたい	63	38.1	60.3	1.6

【表2 - 1(1) - 2 愚痴や無駄話を聞いてくれる人の有無別 地域活動への参加状況】

	全 体	参 加 し て い る	参 加 し て い な い	無 回 答
(%)				
愚痴や無駄話を聞いてくれる人の有無				
2歳				
全 体	766	23.9	74.3	1.8
いる	699	24.9	73.5	1.6
いない	64	12.5	82.8	4.7
5歳				
全 体	733	19.0	78.4	2.6
いる	670	19.7	77.5	2.8
いない	51	7.8	92.2	-
小3				
全 体	1055	55.5	43.3	1.2
いる	984	56.6	42.3	1.1
いない	69	37.7	59.4	2.9
小6				
全 体	1195	58.2	40.7	1.1
いる	1103	59.2	39.9	0.9
いない	86	46.5	51.2	2.3
中2				
全 体	1006	22.2	75.5	2.3
いる	920	22.7	75.1	2.2
いない	73	15.0	83.6	1.4
17歳				
全 体	803	31.6	65.3	3.1
いる	727	32.7	64.4	2.9
いない	65	20.0	75.4	4.6

(2) 地域活動に参加して思うこと(小6)(中2)



地域活動に参加して思うこととして、年代にかかわらず「やっていることが楽しい」が最も多く、小6で70.3%、中2で69.6%となっている。次いで「友だちといっしょで楽しい」「体が丈夫になる」「いろいろな人と会えて楽しい」などが多く、プラス面の項目が上位を占めている。(図2-1(2))

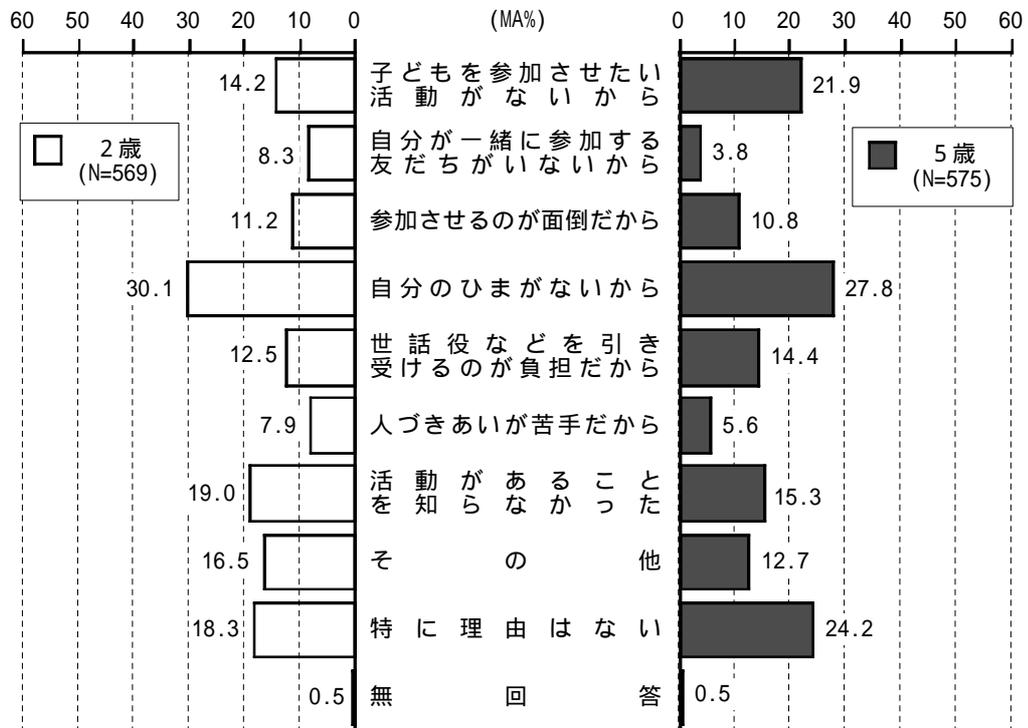
地域活動に参加していない人にその理由をたずねたところ、2歳、5歳の保護者では「自分のひまがないから」が最も多く、約30%を占めている。これに次いで、5歳では「子どもを参加させた活動がないから」が約20%を占めている。どちらも「活動があることを知らなかった」という回答が15~20%を占めている。(図2-1(3))

小6・中2の子どもをみると、年代にかかわらず「なんとなく」が最も多く、小6で43.1%、中2で45.7%を占めている。これに、小6では「遊ぶ時間がへる」「どんなことをするのかわからない」が約20%で続き、中2では「忙しくて行く日がない」「遊ぶ時間がへる」が25~30%で続いている。また、小6では中2に比べて「親がすすめない」の回答割合が高くなっている。(図2-1(3))

( 3 ) 地域活動に参加していない理由 ( 2 歳 )( 5 歳 )( 小 6 ) ( 中 2 )

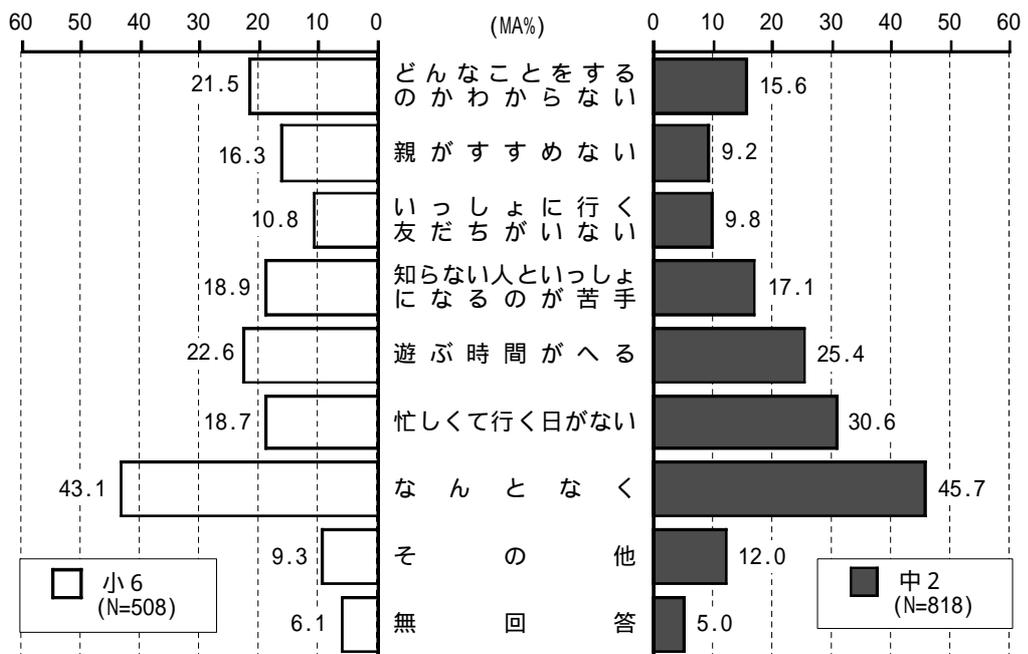
保護者に聞いた理由 ( 2 歳 ・ 5 歳 )

【 図 2 - 1 ( 3 ) 】

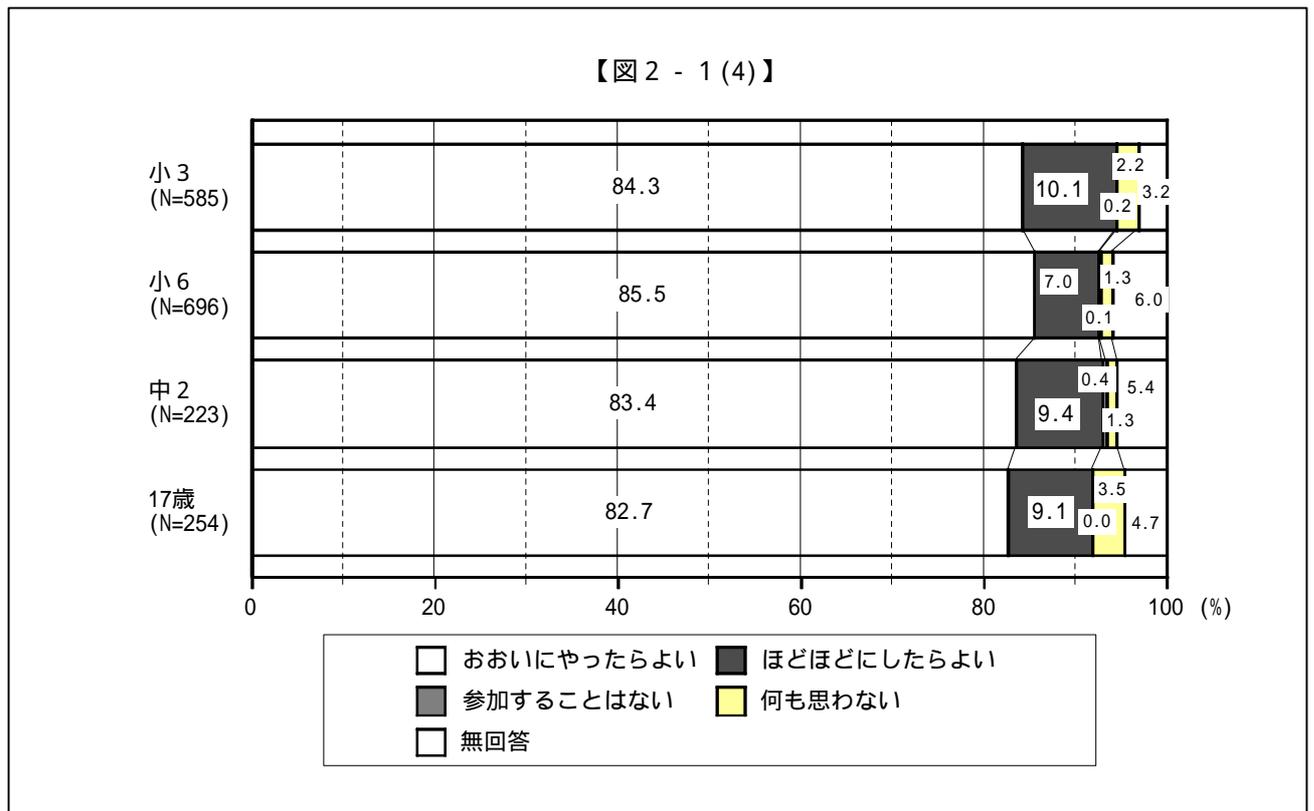


子どもに聞いた理由 ( 小 6 ・ 中 2 )

【 図 2 - 1 ( 3 ) 】

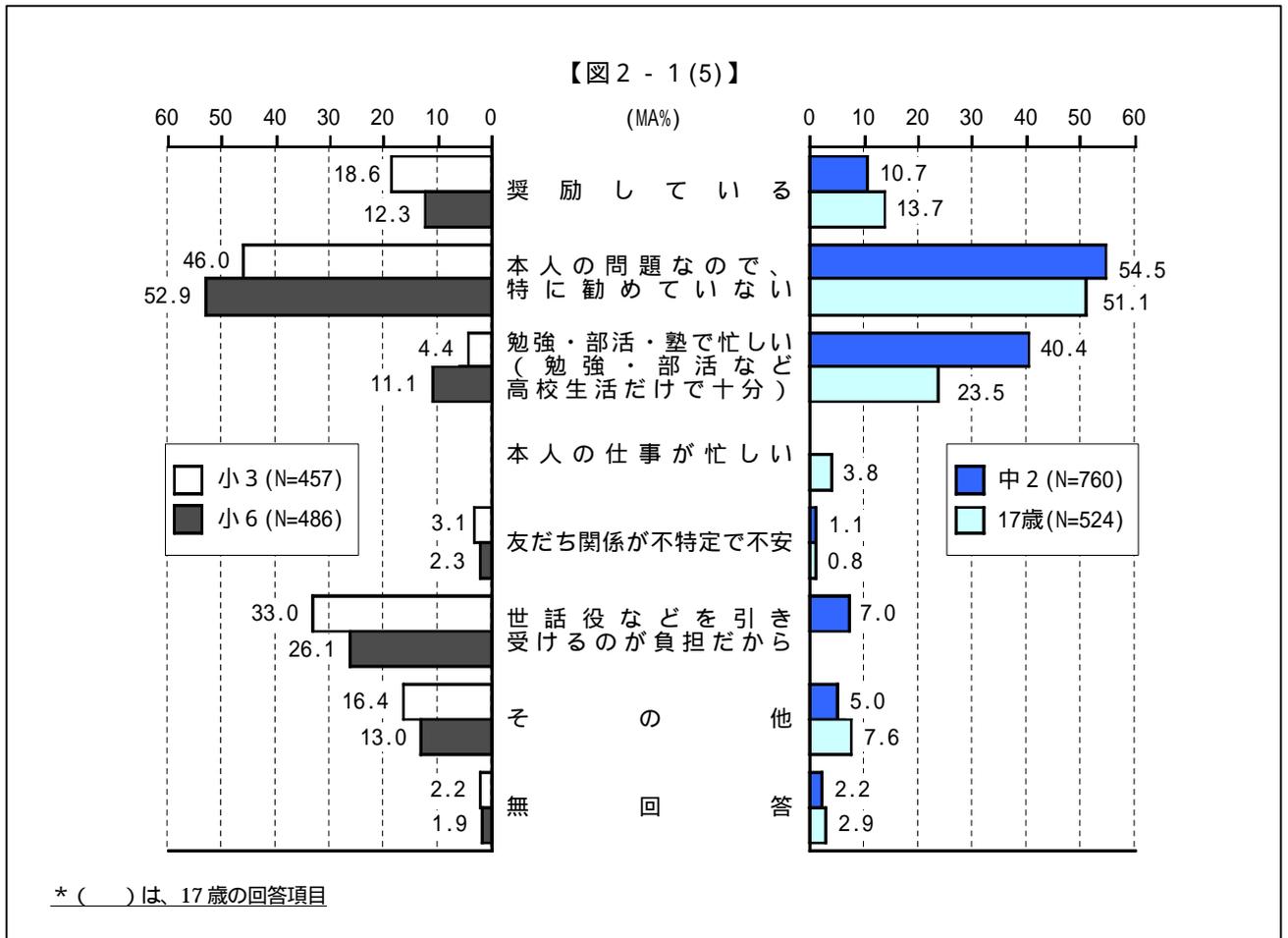


(4) 子どもの地域活動への参加に対する保護者の考え(小3)(小6)(中2)(17歳)



現在子どもが地域活動に参加している保護者に、子どもが地域活動に参加することについての考えをたずねたところ、各年代を通じて「おおいにやったらよい」が80%以上を占め、参加に対して積極的に賛成する意見が多くなっている。(図2 - 1(4))

(5) 地域活動の奨励(小3)(小6)(中2)(17歳)



一方、現在子どもが地域活動に参加していない保護者に、地域活動を奨励しているかどうかたずねたところ、いずれの年代も「奨励している」という回答は少なく、10~20%となっている。最も多かったのは、年代にかかわらず「本人の問題なので、特に勧めていない」となっており、50%前後を占めている。次いで、小3、小6では「世話役などを引き受けるのが負担だから」、中2、17歳では「勉強・部活・塾で忙しい(勉強・部活など高校生活だけで十分)」が多くなっている。(図2 - 1(5))

( 6 ) 地域行事・催しへの参加状況 ( 2 歳 )( 5 歳 )( 小 3 )( 小 6 ) ( 中 2 )

【表 2 - 1 ( 6 )】

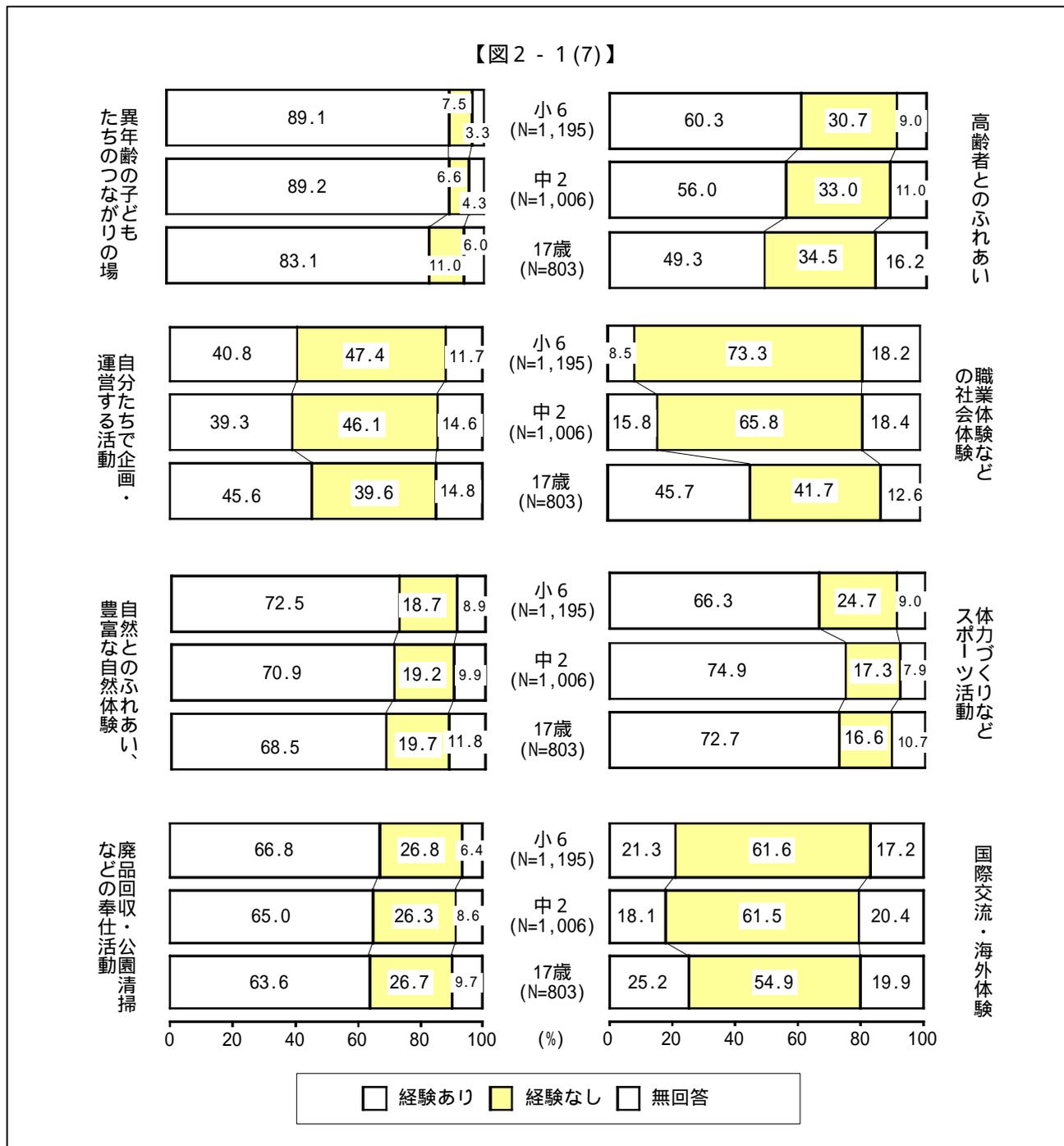
	夏祭りや盆踊り	秋祭り	コミセンまつり	子どもカーニバル	紙芝居まつり	地域運動会	おはなし会	子どもと本のまつり	小学生自然教室	田植え・稲かり体験	みのお川ウォーキング・アドベンチャー	星を観る会
2 歳 (N=766)	65.0	12.4	-	7.7	2.9	-	12.9	4.6	-	-	-	-
5 歳 (N=733)	74.9	21.3	-	12.7	7.2	-	21.3	14.2	-	-	-	-
小 3 (N=1,055)	82.2	28.9	36.5	15.5	9.0	54.4	45.8	13.0	4.1	4.4	4.5	4.5
小 6 (N=1,268)	83.7	30.6	27.8	14.0	6.5	43.2	26.8	5.1	3.4	13.8	7.0	8.5
中 2 (N=1,223)	82.2	20.5	9.7	-	-	20.6	-	-	-	-	1.1	-

	のサマーキャンプ(教学)	みのおセツパラム	遊ぼう会	ベタンク大会	ル市民スポーツカーニバル	青少年文化祭	ブラスフェスティバル	学術の森ワイルドキャン	その他	参加したことがない	無回答
2 歳 (N=766)	-	-	-	-	-	-	-	-	3.5	-	26.5
5 歳 (N=733)	-	-	-	-	-	-	-	-	4.2	-	17.5
小 3 (N=1,055)	15.8	4.4	15.1	6.8	4.6	5.6	-	-	1.7	6.0	0.9
小 6 (N=1,268)	22.4	3.9	14.6	8.4	12.2	5.8	-	-	1.5	4.4	3.6
中 2 (N=1,223)	-	1.3	-	-	-	9.6	6.6	3.6	1.9	9.8	3.5

子どもの地域行事・催しへの参加状況を見ると、いずれの年代も「夏祭りや盆踊り」への参加が最も多く、2歳では65.0%、5歳では74.9%、小3以上では約80%を占めている。これに次いで、「地域運動会」への参加者が多く、小3、小6では40~50%程度を占めているが、年代が上がるにつれてその割合は減少している。小3以上では「参加したことがない」が4~10%となっており、大部分の子どもが何らかの行事や催しに参加している。(表2-1(6))

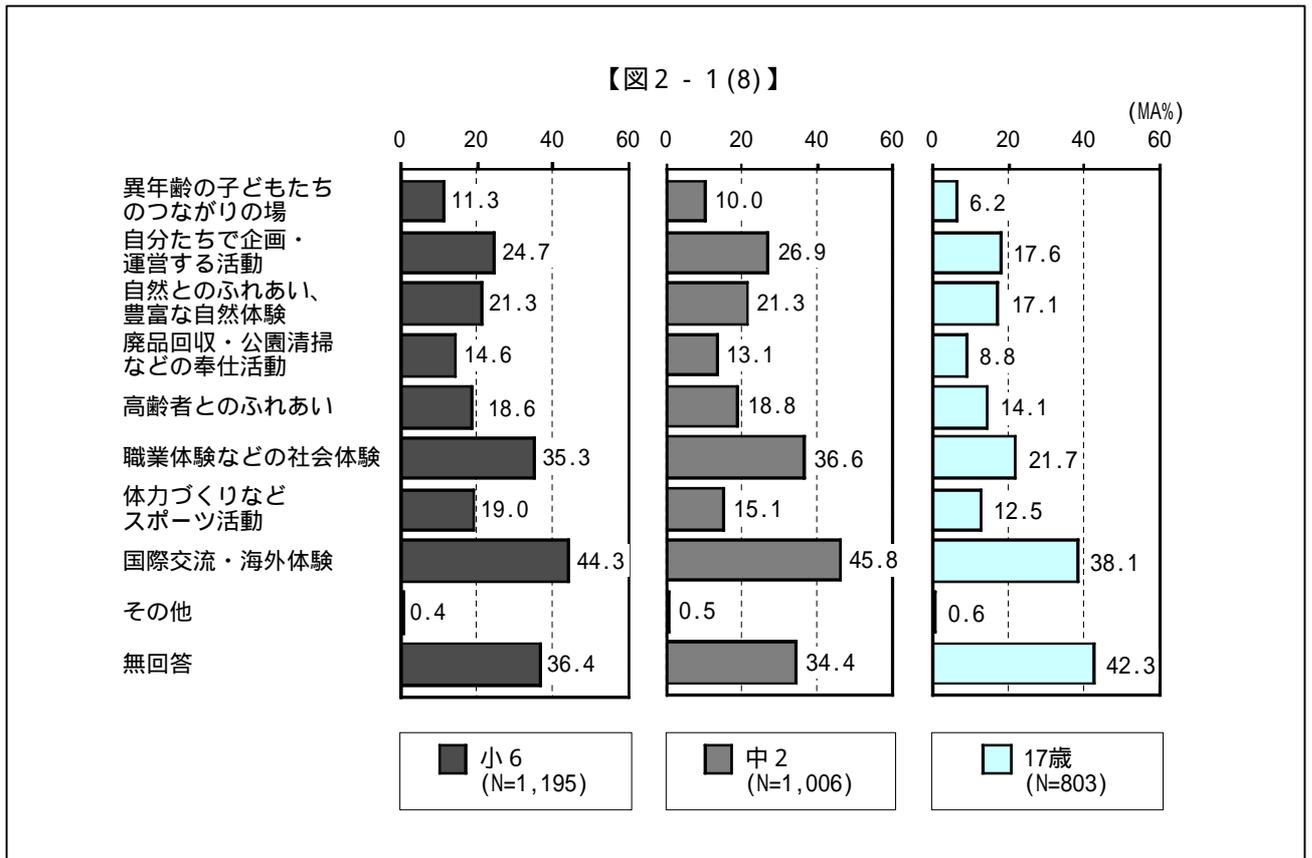
(7)(保護者がみた)子どものこれまでの体験・経験(小6)(中2)(17歳)



これまでの子どもの体験・経験をみると、『異年齢の子どもたちのつながりの場』『自然とのふれあい、豊富な自然体験』『廃品回収・公園清掃などの奉仕活動』『高齢者とのふれあい』『体力づくりなどスポーツ活動』については、いずれの年代も「経験あり」が最も多く、50%もしくはそれ以上を占めている。しかし、『高齢者とのふれあい』は年代が上がるにつれてその割合が減少している。

『自分たちで企画・運営する活動』『職業体験などの社会体験』は、中2までは「経験なし」が多くなっているが、17歳になるとその割合が減少し「経験あり」がやや上回っている。『国際交流、海外体験』は各年代を通じて「経験なし」が50%以上を占めており、「経験あり」という回答は20%前後となっている。(図2 - 1(7))

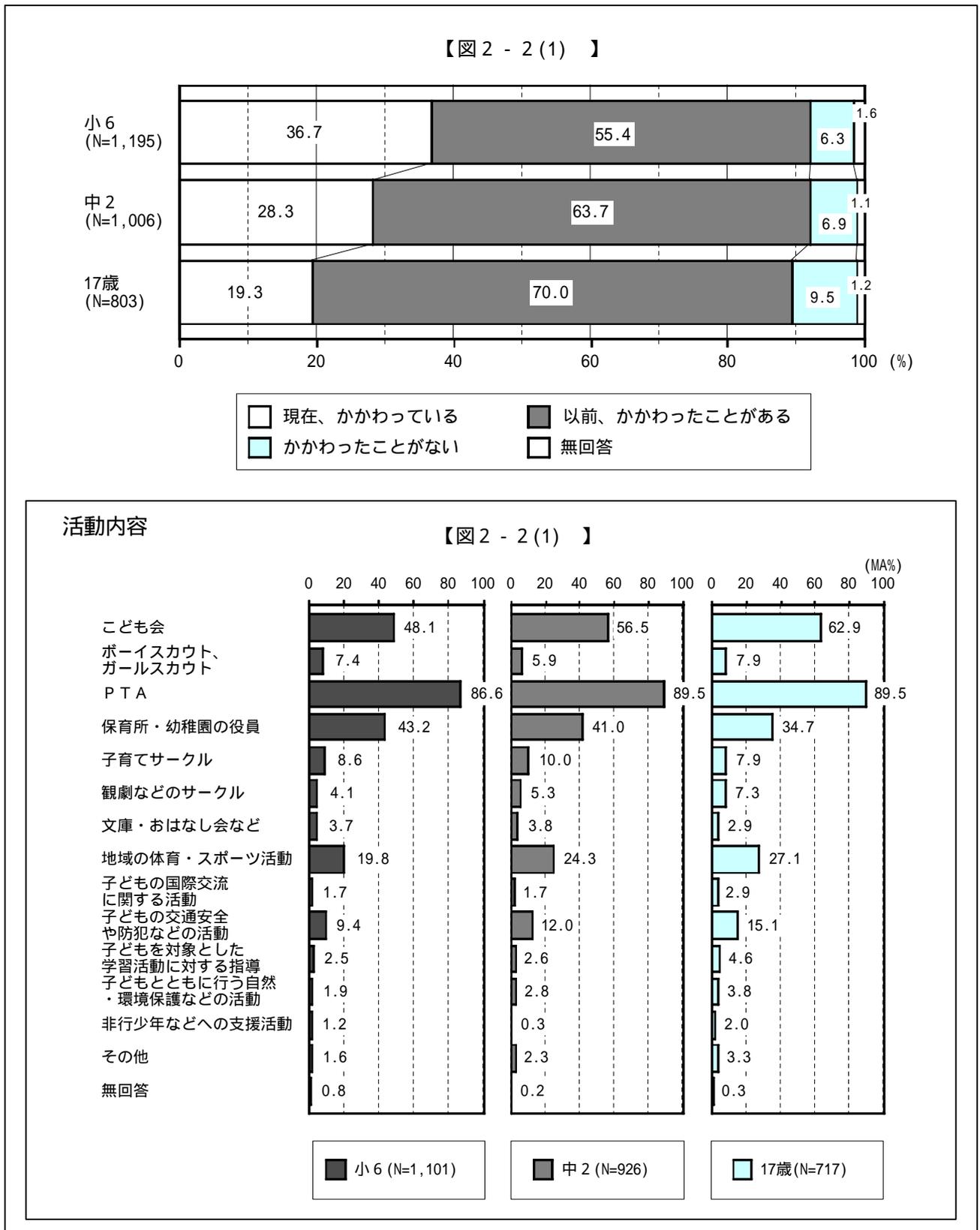
( 8 ) 今後体験させたい活動 ( 小 6 ) ( 中 2 ) ( 17 歳 )



今後体験させたい活動を見ると、いずれの年代も「国際交流・海外体験」が最も多く、小6で44.3%、中2で45.8%、17歳で38.1%となっている。これに次いで、「職業体験などの社会体験」「自分たちで企画・運営する活動」も多く、17歳に比べてそれらの経験が少ない小6、中2の割合が高くなっている。これまでに経験の少なかった体験・活動への希望が高くなっている。(図2 - 1 (8))

## 2. 保護者の地域活動

(1) 子育てをする中でかかわってきた活動(小6)(中2)(17歳)

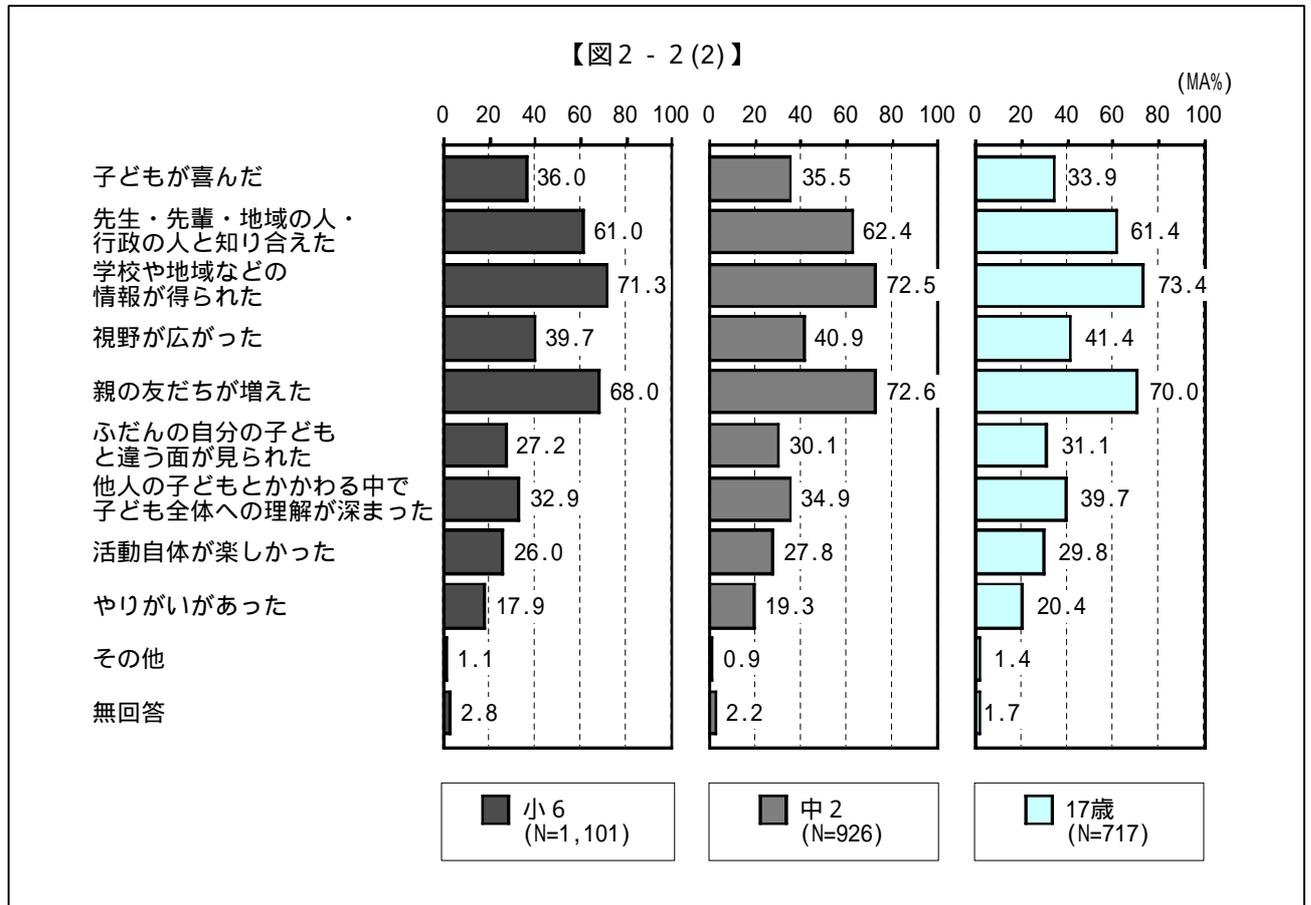


子育てをする中で活動にかかわってきた経験をみると、「現在、かかわっている」「以前、かかわったことがある」をあわせてかかわった経験のある人は、各年代を通じて約90%を占めている。

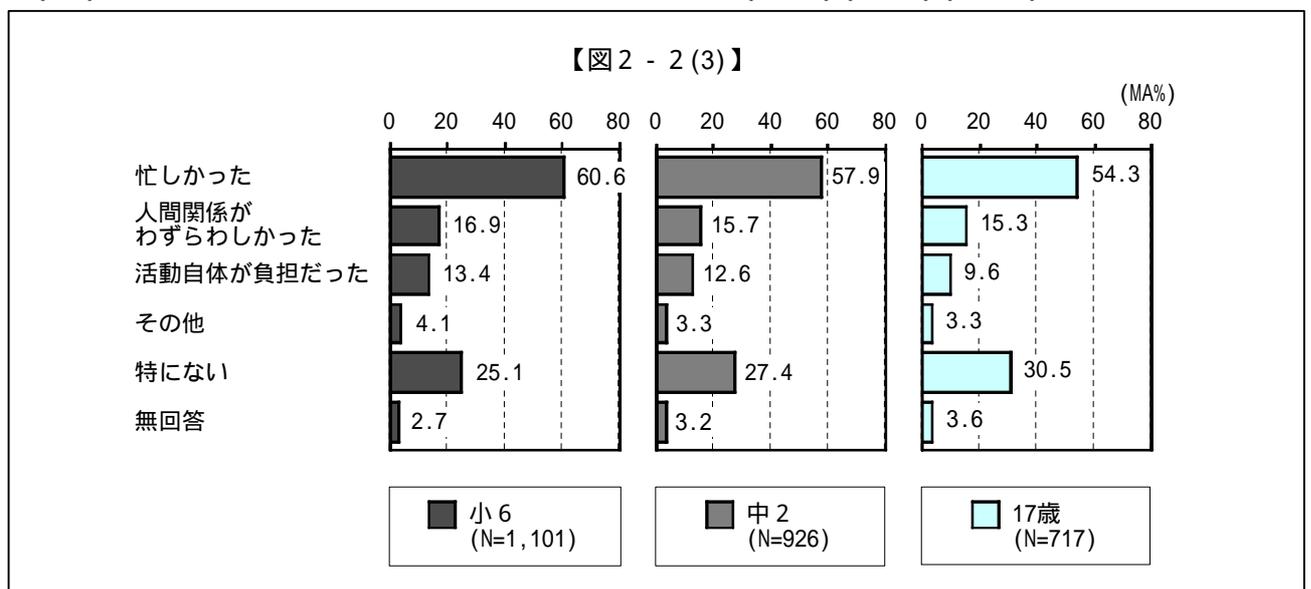
いずれの年代も「以前、かかわったことがある」が最も多く、年代が低いほど「現在かかわっている」の回答割合は高くなっている。(図2 - 2(1) )

かかわった活動内容をみると、年代にかかわらず「PTA」が最も多く、85~90%を占めている。次いで「こども会」が50~60%程度を占めている。(図2 - 2(1) )

(2) 活動にかかわって良かったこと(小6)(中2)(17歳)



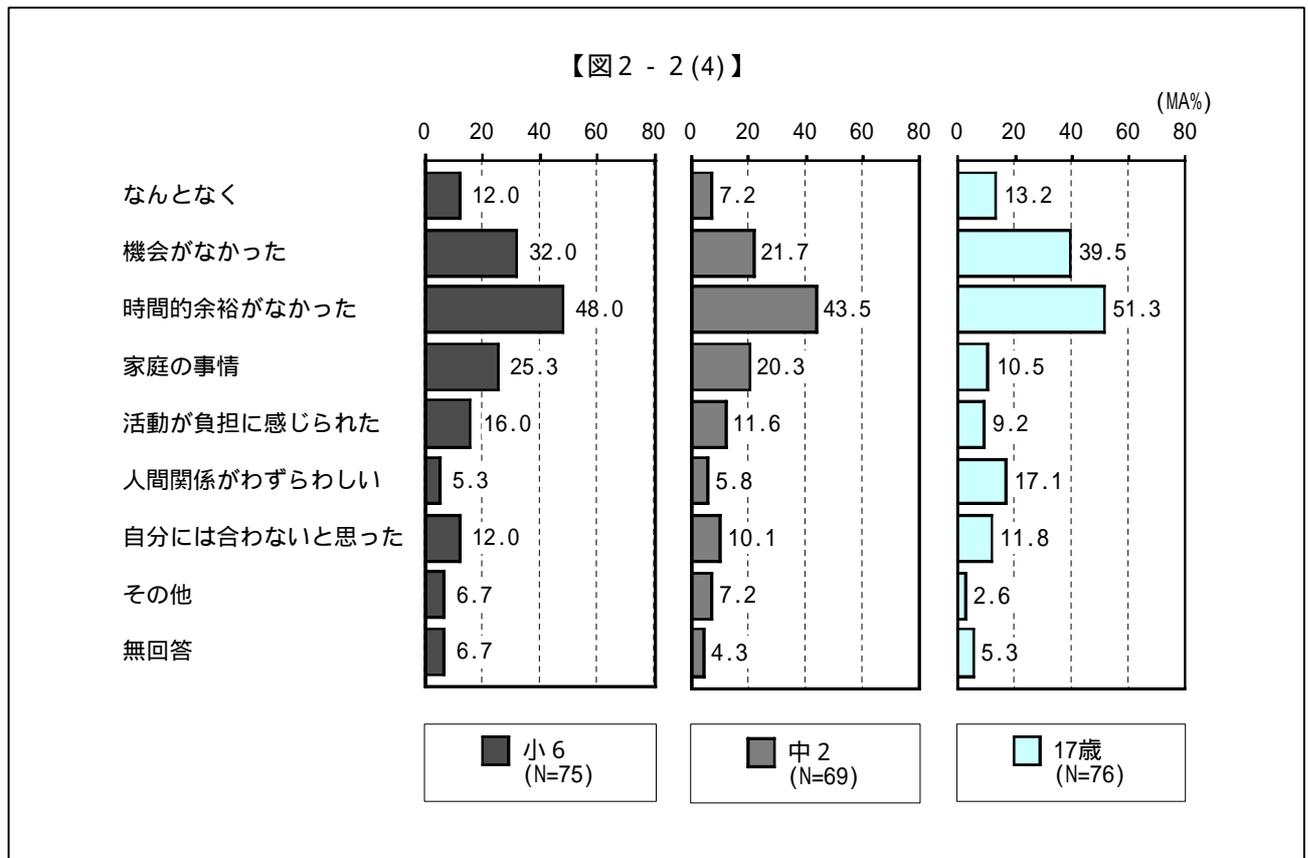
(3) 活動にかかわって困ったこと・良くなかったこと(小6)(中2)(17歳)



活動にかかわって良かったことをあげてもらったところ、共通して多かったのは「学校や地域などの情報が得られた」「親の友だちが増えた」「先生・先輩・地域の人・行政の人と知り合えた」などとなっており、いずれも60%以上を占めている。また、活動自体に対して評価している「活動自体が楽しかった」「やりがいがあった」などの項目は20~30%程度となっている。(図2 - 2(2))

反対に、活動にかかわって困ったこと・良くなかったことは、いずれの年代も「忙しかった」が最も多く、50%以上を占めている。また、「人間関係がわずらわしかった」「活動自体が負担だった」という回答は各年代で約10%を占めている。(図2 - 2(3))

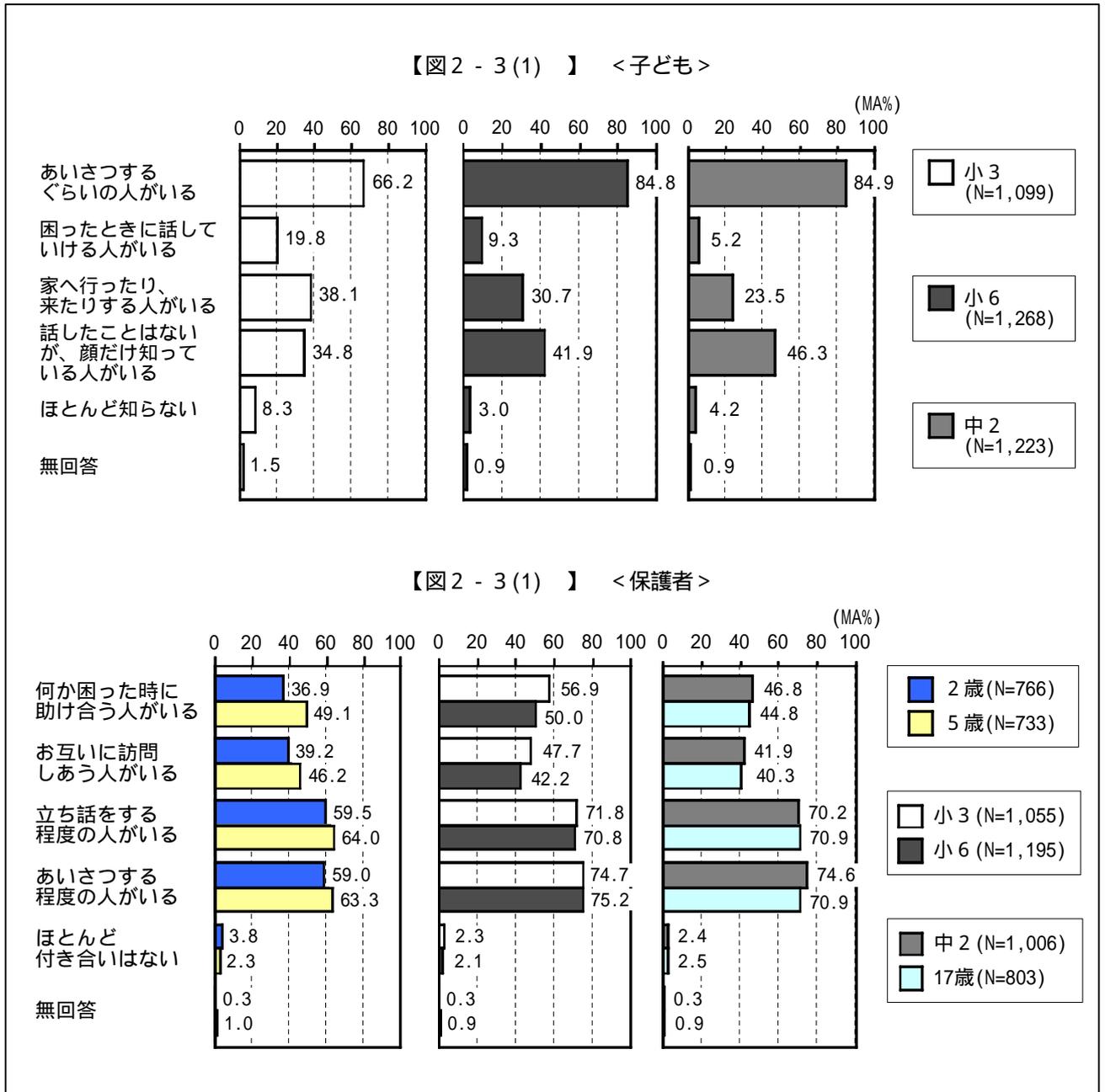
(4) 活動にかかわらなかった理由(小6)(中2)(17歳)



また、これまで活動にかかわった経験のない人にその理由をたずねたところ、年代にかかわらず「時間的余裕がなかった」が最も多く、小6で48.0%、中2で43.5%、17歳で51.3%を占めている。次いで「機会がなかった」「家庭の事情」などが多くなっている。また、17歳では「人間関係がわずらわしい」が17.1%を占め、他の年代に比べて割合が高くなっている。そして、「活動が負担に感じられた」は年代が低いほど割合が高く、小6では16.0%を占めている。(図2 - 2(4))

### 3. 地域の大人・子どもとの関係

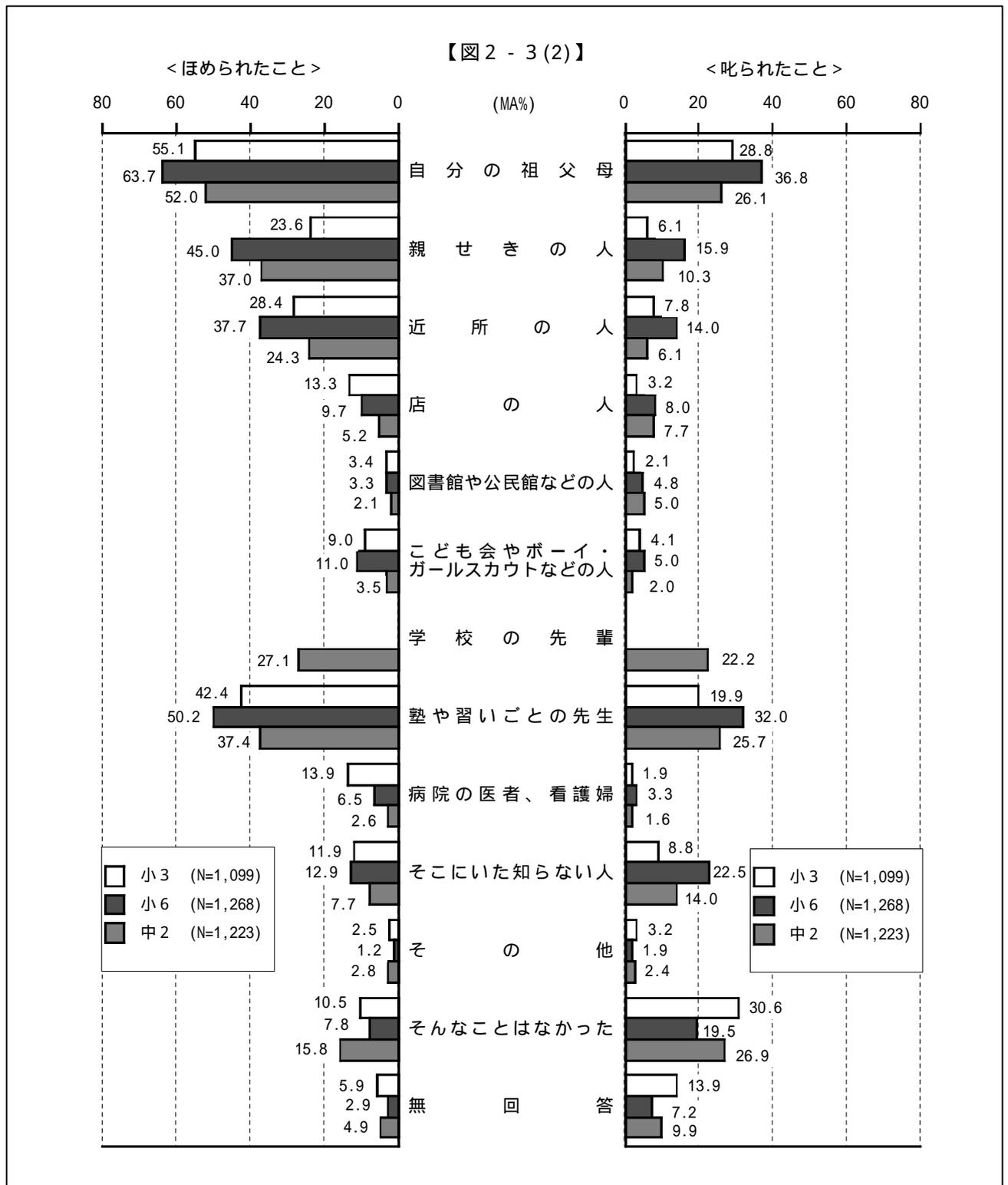
(1) 近所との付き合い(2歳)(5歳)(小3,小3)(小6,小6)(中2,中2)(17歳)



近所付き合いの状況を見ると、子どもの場合、いずれの年代も「あいさつするぐらいの人がいる」が最も多く、小6以上では80%以上を占めている。また、「困ったときに話していける人がいる」は小3で約20%、「家へ行ったり、来たりする人がいる」は小3、小6で30%以上を占めており、年代が低いほどその割合は高くなっている。(図2 - 3(1))

保護者の場合では、「何か困った時に助け合う人がいる」「お互いに訪問しあう人がいる」は各年代を通じて40~50%程度を占めているが、2歳では最も低くなっている。その一方で、いずれの年代も「立ち話をする程度の人がある」「あいさつする程度の人がある」という回答が50%以上を占めており、小3以上では70%以上となっている。(図2 - 3(1))

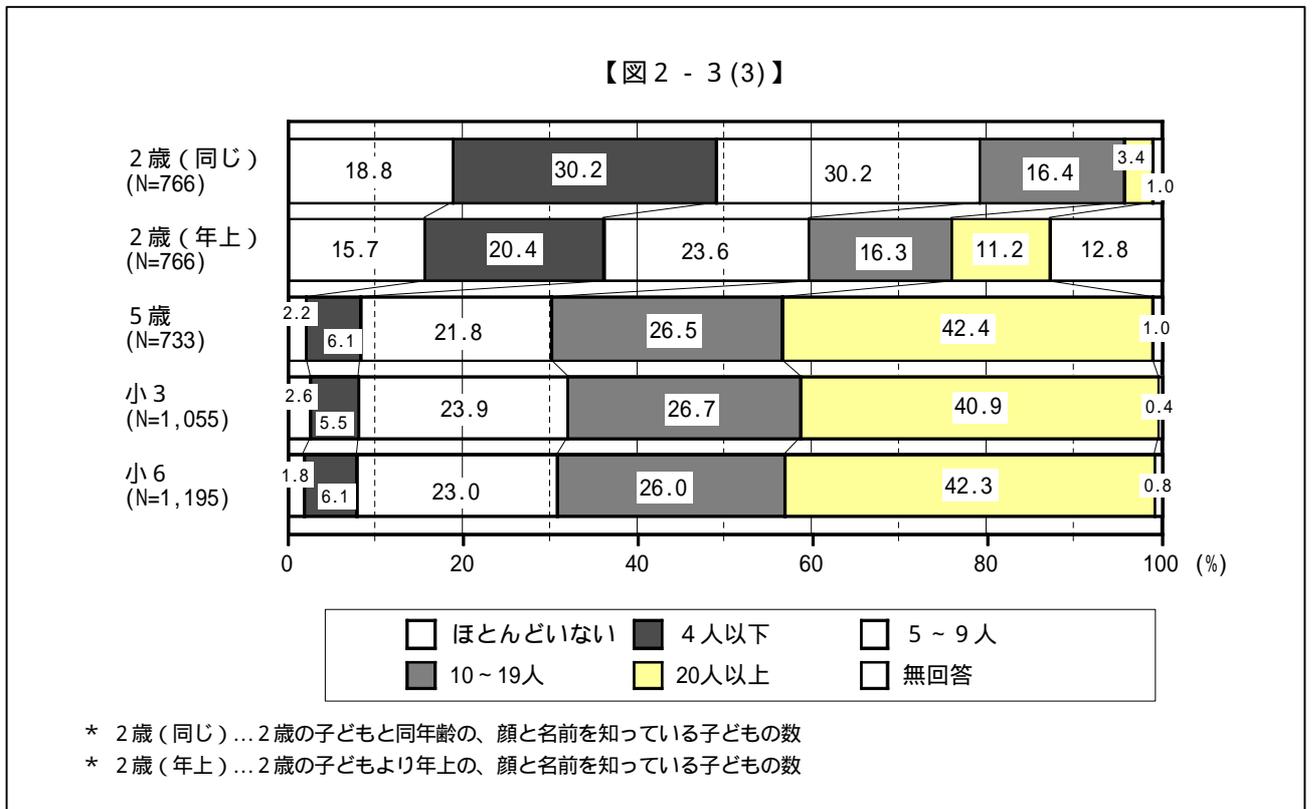
(2) 地域の人にほめられたこと・叱られたこと(小3)(小6)(中2)



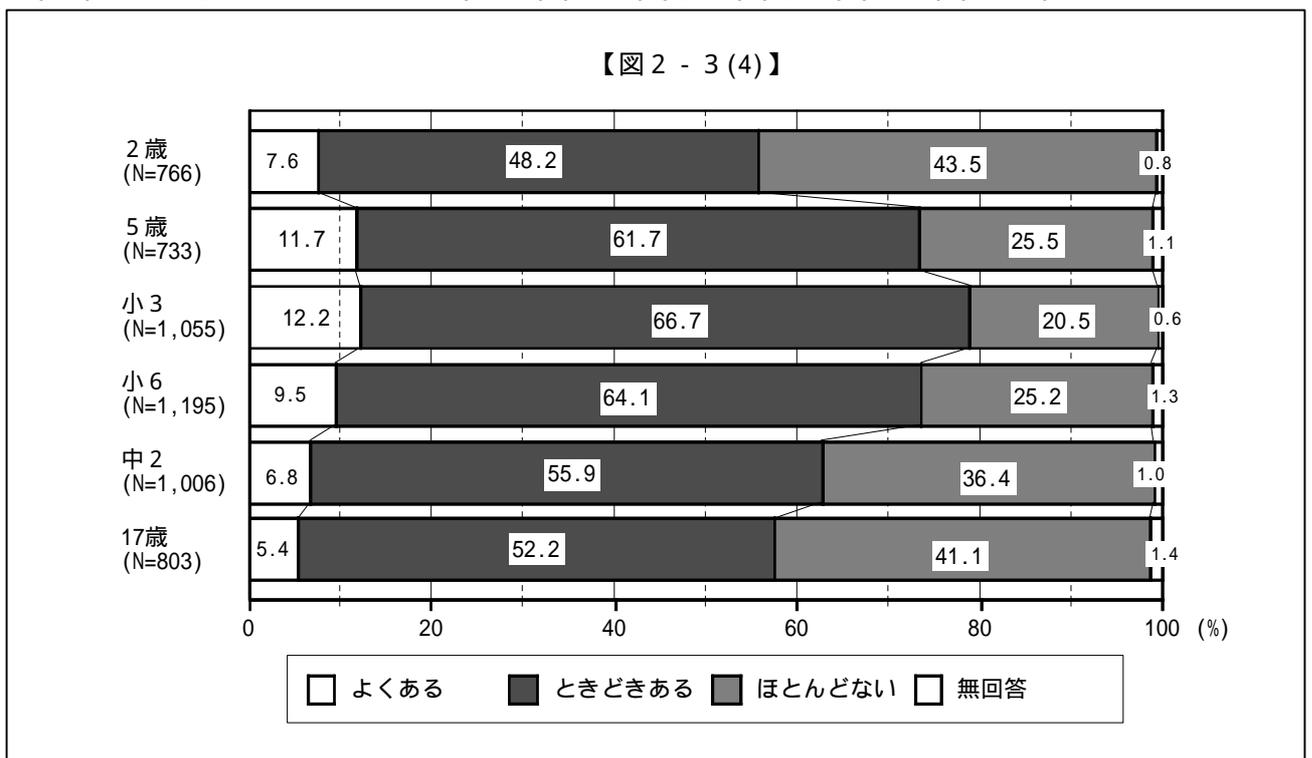
子どもに対して、地域の人にほめられたこと・叱られたことについてたずねたところ、ほめられたことのある人で最も多かったのは、いずれの年代も「自分の祖父母」となっており、50%以上を占めている。次いで、「塾や習いごとの先生」「親せきの人」「近所の人」などが多く、これに加えて中2では「学校の先輩」も多くなっている。一方、「そんなことはなかった」と回答した人は各年代で10~15%程度となっている。

反対に、叱られたことがある人で多かったのは、「自分の祖父母」「塾や習いごとの先生」となっている。これに次いで、小6では「そこにいた人」、中2では「学校の先輩」も多くなっている。(図2-3(2))

(3) 顔と名前を知っている子どもの数(2歳)(5歳)(小3)(小6)



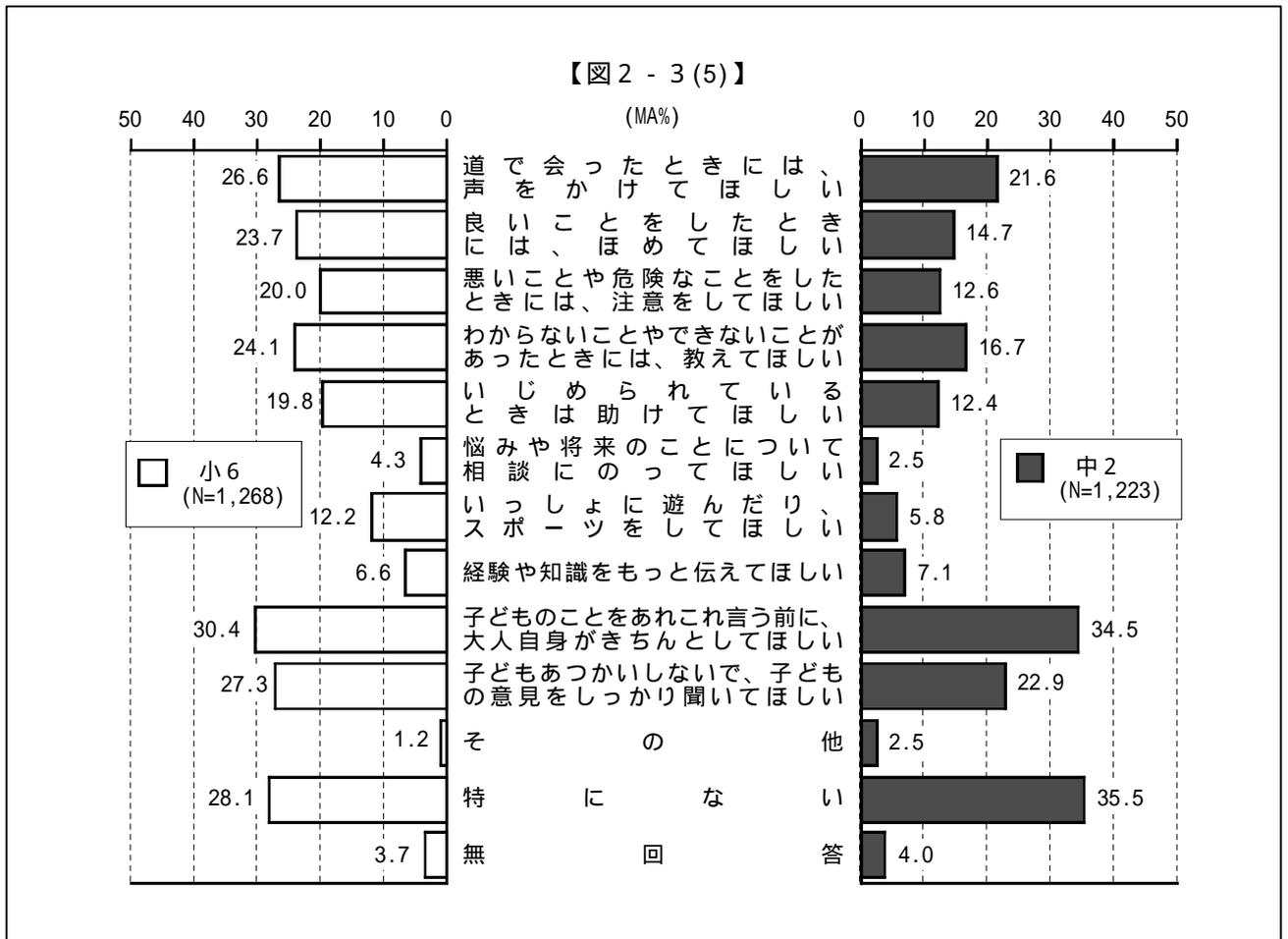
(4) 近所の子どもを叱った経験(2歳)(5歳)(小3)(小6)(中2)(17歳)



身近な地域で顔と名前を知っている子どもの数をみると、2歳では「4人以下」「5～9人」が多く、同年齢で各30%、年上で各20%を占めている。5歳以上になると、「20人以上」が最も多く、各年代を通じて約40%を占めている。一方、「ほとんどいない」という回答は、2歳で15～20%を占めており、他の年代に比べて割合が高くなっている。(図2-3(3))

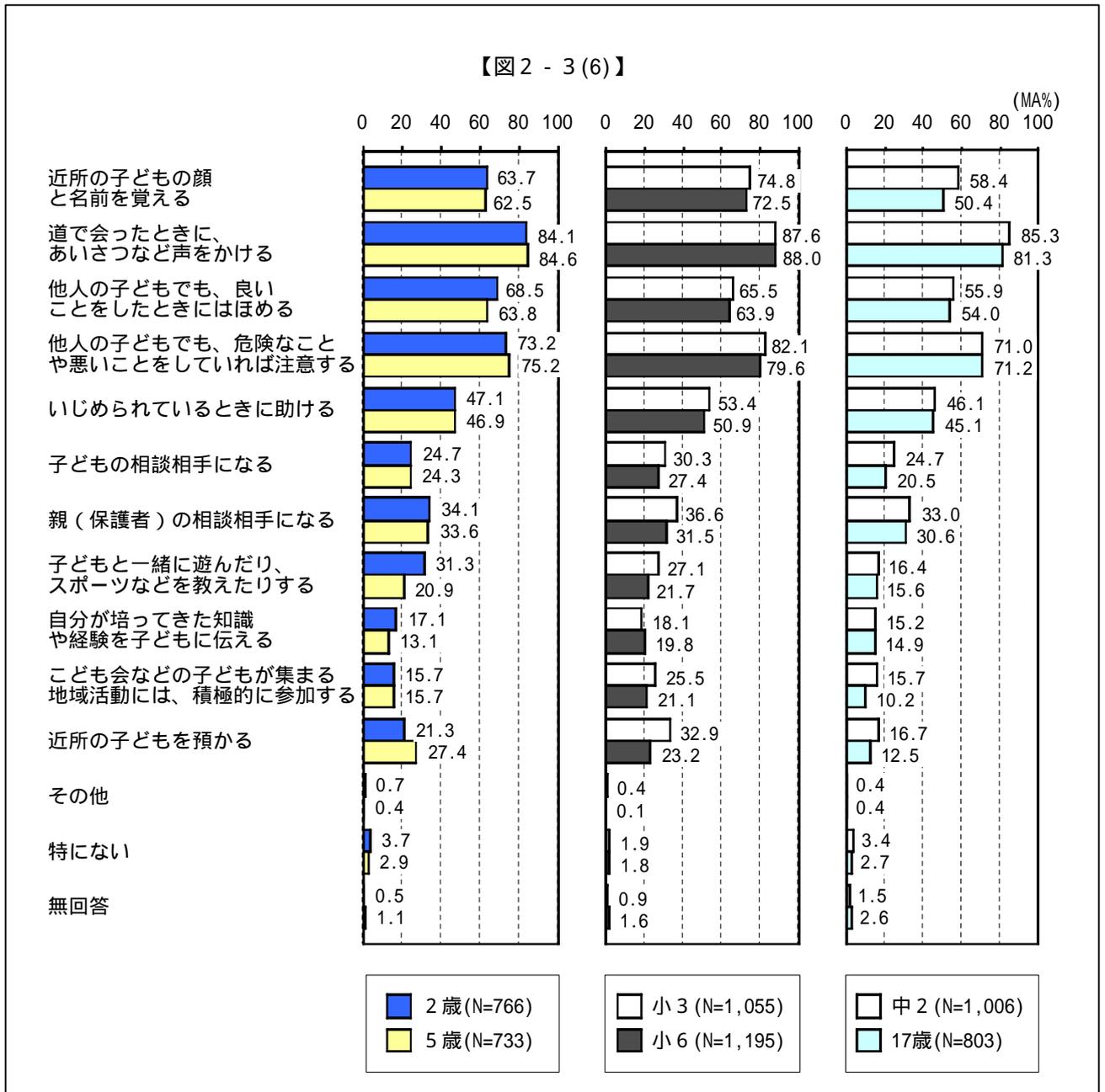
近所の子どもの叱った経験をみると、いずれの年代も「ときどきある」が最も多く、「よくある」をあわせた叱った経験のある人は50%以上を占めている。年代が上がるにつれてその割合も増加し、小3では80%近くを占めるようになるが、それ以上になると減少傾向に転じ、「ほとんどない」の回答割合が増加している。(図2-3(4))

(5) 地域の大人に望むこと(小6)(中2)



小6・中2の子どもに対して、地域の大人に対して望むことをたずねたところ、いずれの年代も「子どものことをあれこれ言う前に、大人自身がきちんとしてほしい」が最も多く、約30%を占めている。これに次いで、「子どもあつかいしないで、子どもの意見をしっかり聞いてほしい」「道で会ったときには、声をかけてほしい」「良いことをしたときには、ほめてほしい」「わからないことやできないことがあったときには、教えてほしい」などが続いているが、いずれの項目も中2よりも小6の割合の方が高くなっている。一方、「悩みや将来のことについて相談にのってほしい」「経験や知識をもっと教えてほしい」などの項目は10%未満と特に割合が低くなっている。(図2-3(5))

(6) 地域の子どものためにできること(2歳)(5歳)(小3)(小6)(中2)(17歳)



保護者に対して、地域の子どものためにできることをたずねたところ、年代にかかわらず「道で会ったときに、あいさつなど声をかける」が最も多く、80%以上を占めている。次いで「他人の子どもでも、危険なことや悪いことをしていれば注意する」「他人の子どもでも、良いことをしたときにはほめる」「近所の子どもの顔と名前を覚える」などが多く、いずれも50%以上を占めている。また、「子どもと一緒に遊んだり、スポーツなどを教えたりする」「近所の子どもの預かる」は2歳から小6では20~30%を占めており、中2以上に比べて割合がやや高くなっている。(図2 - 3(6))